



城東図書館 2023年2月17日～3月15日実施

まちのひと 千田 正明さんの紹介本リスト

銭湯経営者

湯道	小山 薫堂/原作	幻冬舎
<p>この物語の舞台は、年々その件数が減ってきている街の一軒のお風呂屋さんです。令和のこの時代、リアルに銭湯業界が抱えているある問題を軸に、そのお店で働く人々の思い、そしてそこに集う人々の人間模様を交えながら時には面白おかしく、時にはしみじみと展開していくお話です。</p> <p>現在、城東区には13軒の銭湯が元気に営業をしております。毎日朝6時から営業している店。天然温泉の店。昭和時代のレトロなたたずまいが今もなお残っている店。炭酸泉でお客様をお迎えしているみせ。各店、それぞれ個性をだしながら銭湯文化を守っています。</p> <p>この本を通じて、銭湯を身近に感じていただき、「たまには銭湯に行ってみるか」と思っただけであれば、大変嬉しく思います。</p>		

味覚の文学散歩	大河内紹爾 / 著	講談社
<p>「まずこの本は、新旧色とりどりの文学作品から食に関する文章だけを選び出して編んだ本である。またこれば、札幌からはじまって長崎にいたる文学さんぽであると同時に食べ歩きの本でもある。」と、解説の玉村豊男氏は語っておられます。</p> <p>札幌のじゃがいもと牛乳。千葉の磯料理。伊豆のしし鍋。そして金沢ではゴリ料理。京都のハモに大山の精進料理。</p> <p>たしかにこれだけみれば、食べ歩きの本のようにもみえますが、この本の最大の魅力はグルメ、旅、そして文学作品が融合している園ではないでしょうか。まさに本のタイトルどおり『味覚の文学散歩』なのです。</p> <p>美食家であり、また文学者でもある著者がたどり着いた味覚の風土を訪ね歩くエッセイを、どうぞお楽しみください。</p>		

旅と鉄道		天夢人 JTBパブリッシング
<p>「旅が好きです。」そうおっしゃる人は多いのではないのでしょうか。私もその一人です。目的地をどこにするのか。その目的地に行くためにはどんなルートがあるのか。移動手段は何にするのか。そんな計画を立てるところから、旅は始まっているのだと思います。</p> <p>そんな旅の計画をたてるのに私が参考にしていたのが、この『旅と鉄道』と『時刻表』でした。若い頃はよく時刻表を眺めながらドリームプランを考えたものです。寝台列車に乗って、朝、目的地についたらこことあそこに行って、昼はここでご飯を食べて、その日はこの温泉旅館に泊まって……みたいな(笑)旅雑誌や時刻表は、旅への憧れを高めてくれます。近々旅を計画されている方がいましたら、是非参考にしてみてください。</p>		

梶井基次郎全集		筑摩書房
<p>私と梶井基次郎の小説との出会いは、今から30年以上も前になります。大学の講義でとりあげられたのが梶井氏の小説『檸檬』でした。その講義をきっかけに、大学生後半は様々な梶井氏の作品を読み、また、その作品に関連して本に目を通し、最後には卒業論文の題材ともなりました。当時のこの経験はいま、とても良い思い出となっております。</p> <p>なかでも卒業論文でとりあげた『檸檬』は、当時の私にとって読み深めるにはかなり難解な作品でありました。いろいろな研究者たちの書物を読み、私は私なりに想像をふくらませて、なんとか作品を理解してきました。いまでも当時の卒業論文は家の本棚に残っています。</p> <p>独特な世界観のある梶井基次郎氏の作品に、是非触れてみてください。</p>		

楯円球の詩 自伝・林敏之	林 敏之/著	ベースボール・マガジン社
--------------	--------	--------------

「林敏之」
 往年のラグビーファンだけではなく、今もラグビーにたずさわる人なら誰もが知る名前ではないでしょうか。
 1988年から1994年にかけて、全国社会人大会と日本選手権の二冠を七連覇した強豪チーム「神戸製鋼ラグビー部」の当時の中心メンバーだったおひとりです。「壊し屋」と呼ばれていたことを記憶している方も多いでしょう。私も神戸製鋼ラグビー部、そして林氏の大ファンでした。
 その林氏の生誕から36歳で引退するまでの歩みを赤裸々につづったこの一冊。悩み、苦しみ、そして挫折。どんな苦難にぶち当たっても常に前を見続ける林氏の姿は私に感動と勇気を与えてくれました。
 一人のラグビー選手が歩んできた選手人生を、どうぞお読みください。

真理子の青春日記&レター マリコ・ストリート 南青山物語	林 真理子/著	KADOKAWA
------------------------------------	---------	----------

いまや直木賞作家として、また女性として初の日本大学理事長に就任するなど、輝かしい経歴を持つ林真理子氏。
 私が物書きの仕事についてまだまだかけだした頃、林氏は数々の文学賞を受賞し、多数のテレビ番組にも出演するなど、その活躍はすばらしいものでした。同じ職に就いている私にとっては、憧れの存在でありました。
 今回ご紹介する三冊は、その林氏が青春時代に生きた姿がありのままに描かれている本です。時には悩み、時には恋をし、時には夢をみて……。それぞれが良くも悪くも林氏自身の言葉で表現されています。
 携帯電話やスマートフォンが無かった時代に、仕事、恋、夢に奮闘した一人の女性の姿をご覧ください。

大阪市立城東図書館

大阪市城東区中央3-5-45 06-6933-0350

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>